



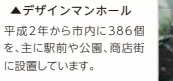
豊中市は、今年10月に市制施行80周年を迎えます。
人が生活していくために欠かせない「水」の確保と処理に、「とよなか」は、早くから取り組み、この間、住みよい環境づくりに力を注ぎ、快適なくらしの基礎作りを進めてきました。

とよなかの水の歴史

明治時代から大正時代にかけて、当時の豊中村では、生活用水を、主に浅井戸から汲み上げていましたが、人口の増加に対応した水質や湧水量を確保するため、今の上下水道局庁舎のある場所に深井戸を掘り、町制施行の翌年の昭和3年に上水道の整備と水の供給を開始しました。

「とよなか」は、昭和11年に市制施行し、合併により市域を拡大しながら発展してきました。そして、人口の急増、産業経済の発展、生活様式の近代化に伴う需要の増加に対応するために、猪名川に水源を求め、昭和32年には淀川を水源とする大阪府営水道からの受水を始めました。

今日の水道に求められることは、市民生活に不可欠な水道水を安全安心にお届けすることです。そのために、配水池や配水管の老朽化対策、耐震化などを進めています。



▲デザインマンホール
平成2年から市内に386個を、主に駅前や公園、商店街に設置しています。

▼Before



観水水路の Before・After
水質の改善、環境保全を目的に整備し、原田処理場で高度処理した水を使って平成元年から新豊島川観水水路で「ホタルのタペ」が開催されています。



▼After



水道発祥の地と第1水源地
昭和3年、1本の深井戸から水道事業がスタートしました。現在の上下水道局庁舎のある場所に第1水源地のあったところです。



◀新田配水池
水需要の増加に対応するために昭和36年に完成しました。その後、市内に配水池の建設改良が進められました。



緑丘配水池▶
安定給水の確保と災害対策を目的に、平成5年から10年にかけて建設しました。



◀平成18年8月22日に発生した記録的な集中豪雨による道路冠水が発生しました。(市役所前の国道176号)

一方、雨水や汚水は水路等により河川やため池に放流され、衛生面に問題がありました。そこで、昭和27年から豊中駅周辺を中心に下水道の整備を開始し、生活環境の改善及び浸水の防除に取り組むこととなりました。

その後も水道と同様、市域の発展に対応して市内全域で下水道整備を進めました。原田処理場は昭和41年、庄内下水処理場は昭和48年から動き始め、水洗化がほぼ99パーセントに達しました。原田処理場はその後、猪名川流域下水道を担うこととなり、今では6市2町※1の下水を処理しています。

現在、本市では浸水対策として雨水管の整備、下水処理場で処理した水を川に戻す際の水質保全対策※2、処理場・ポンプ場や下水道管の老朽化対策、耐震化などを進めています。

※1 大阪府側…豊中市、池田市、箕面市、豊能町 兵庫県側…伊丹市、川西市、宝塚市、猪名川町
※2 雨水と汚水が同じ管で流れるところは、大雨の時は汚濁物を含んだ下水が未処理の状態で川に放流されてしまうことがあります。そのため、雨水を一時的に貯める管を整備して、汚水の流量調整と浸水予防、さらには高度処理化に取り組んでいます。

災害に備えて

災害は突然やってきます。台風や、集中豪雨、地震など東日本大震災、熊本地震はまだ皆さんの記憶に新しいことだと思います。

阪神・淡路大震災を経験した豊中市は、このような大規模な災害に備えて、水道施設の耐震化をし、下水道施設についても、大雨への対策を進めています。



給水タンク車

1,700リットルの飲料水を積み込み運搬できる給水タンク車を2台配備しています。東日本大震災や熊本地震の際にも被災地で給水活動を行いました。

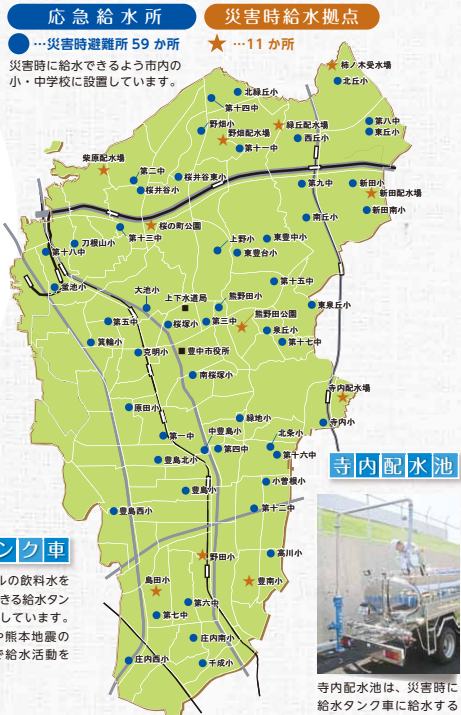
耐震性貯水槽

災害時に飲料水や、消火活動に使える水を確保するための施設で、自由・豊南・野田小学校と熊野田公園に設置しています。これは、地震を感知して、水道管の一部を遮断し、その中に水道水を貯める設備です。災害時の給水拠点にもなっています。



非常用給水袋

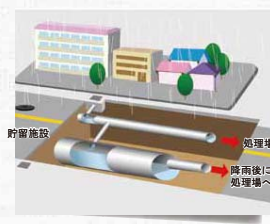
災害時に市民の皆さんに飲料水を配るために上下水道局で備蓄しています。6リットルの水が入り、リュックサックにして背負う事もできます。



キューすい Q水くん 原田処理場に高度処理をした下水の処理水を無料で利用できる施設があります。普段は街路樹のかん水や道路への散水に利用されていますが、災害時にはトイレ用水に活用することができます。

校庭貯留事業
大雨時に小学校のグラウンド表面に一時的に雨水をためて、下水道管に一度に流れ込む雨の量を少なくします。市内の小学校10校に設置しています。

浸水対策
大雨の時に雨水を一度に下水道管に流れないようにパイプ管を作って流れを良くする工夫や、一時的に貯めるための大きな管を埋込んでいます。



コラム 水道一家

という言葉があります

水道は生活に欠かすことのできないものです。全国の上下水道を担う職員は同じ思いを持ち、いざというとき「水道一家」という名のもと一致協力して、給水活動を行います。東日本大震災や熊本地震では、応急給水活動のために全国から給水タンク車が集まりました。本市上下水道局の職員も、現地で給水活動を行いました。

